

キューバの経験に学ぶべき年に

Feliz año nuevo

[新春雑感]

農的社会デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

昨年5月、農林水産省は、2050年までに、農林水産業でのCO2ゼロエミッション化、化学農薬50%減、化学肥料30%減、有機農業面積比率25%とする目標を打ち出した。

これは地球温暖化にともなう気候変動対策の流れを汲むもので、カーボンニュートラルやSDGsの農業版として位置づけられる。有機農業についてみれば、現状、面積比率は0.5%にすぎず、またこれまで有機農業への消極的な姿勢を取り続けてきた農林水産省からすると、“豹変”であると同時に、目標の唐突感は免れない。逆の見方をすれば、重い腰を上げざるを得ない程に“地球温暖化の危機”が迫っているということでもある。

目標実現に懐疑的な見方は多い。そこで思い出されるのが、キューバの special period である。1989年11月の「ベルリンの壁」の崩壊を機に、一気にソ連・東欧の

社会主義体制が崩れ、これらとの国際的分業体制に取り込まれてきたキューバは経済危機に陥った。このため食料の自給化、有機農業への転換、国内資源を活用した産業発展への取組が推進され、これらを実現することによって危機を乗り越えたものである。

今、日本も含めて世界全体が special period に直面しつつあるのが実情ではないか。これを乗り越えての持続的循環型の国づくりが求められるが、キューバの経験に学ぶことは多い。2022年をそのスタートの年にしていかなければならない、と考えている。



ビニャレス渓谷にある有機農場では牛耕が続けられていた(2017.3)

キューバとの出会い

Feliz año nuevo

[新春雑感]

サルサ教室在籍 kazue toguchi

子育てもひと段落してジムで出会ったラテンダンスをきっかけにキューバ人 bailarín Jimaguaに出会い、キューバのトロピカーナのショウダンスのクラスに夢中で通っていた頃。ある日突然脳梗塞に見舞われる。

左半身に残った麻痺。なにより病後の鬱がひどくて踊れる状態からは程遠い日々。

鬱から少しずつ回復した頃に大学で音楽を学んでいたので「踊れないなら久しぶりに歌をうたおう!」と、カルチャースクールのジャズヴォーカルクラスに入会。

暫く通ううちに、何度かモヤモヤ〜「せっかくラテンダンスを習っていたのだからラテンを歌おう」と日本人のヴォーカリストに習っていた頃、彼女から歌う

ためにはスペイン語の勉強は必要と言われ、たどり着いた所が目黒のラテン文化サロン“CAFE y LIBROS”。

こちらでスペイン語を習ううちに、ラテンコーラスのクラ



目黒のCafé y Librosでのクリスマスパーティで(2019.12)

スにも参加し、ラテン音楽を歌う楽しさに出会う事に。

そこで今の私の Maestro “Carlos Sespedes” に出会いました。彼はいつでも優しく丁寧に指導してくださり少しでも上手く歌えた時にはウィンクしながら「Perfecto!!」と褒めて私を育ててくれました(笑)

そしてご自分のライブに生徒として歌わせてくださることに。



両国のSalsaClubラキアでのサルサバンドライブ(2016.4)

その頃私の左手はまだまだピアノを弾くには不自由で頑張っでピアノに向かうも余りの不甲斐なさに何度もピアノの蓋を閉めて諦めていたのですが、彼からの一言、「諦める事は

ないよ! kazue が練習する時に出来る事からで良いから弾いてみたら?」と…何だか目が覚めたというか…やってみよう!!!

そこから少しずつトライし、なんと人生初ライブで弾き語り。Buena vista social club の♪Murmullo♪を歌ったのでした。

キューバ人の心の広さ、暖かさ、私は救われたのです。音楽はいつも私を励ましてくれます。

特にラテン音楽は…